患者様用

11764

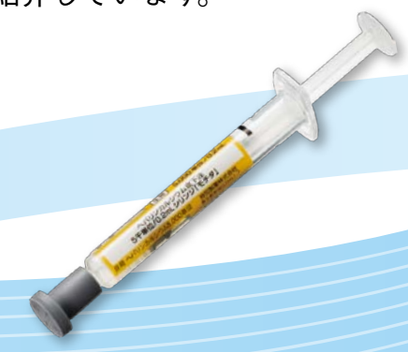
ヘパリンカルシウム皮下注
5千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」

自己注射法マニュアル

在宅自己注射説明書

監修：富山大学医学部　産科婦人科学教室　教授　齋藤　滋

本冊子は、ヘパリンカルシウム皮下注５千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」を患者様ご自身またはご家族の方に注射していただくために、あらかじめ知っておいていただきたいことや注射の手順等を紹介しています。
必ずお読みください。



あなたの注射に関する基本的情報

1 一回の注射量　（　　）単位

2 一日の注射回数（　　）回

3 注射する時間　（　　／　　）

4 注射する期間　（　　）

担当医に記載してもらってください。

連絡先

医療機関名：

電 話 番 号：

持田製薬株式会社

2012 年 11 月作成

2012.11. 11764-4 04 GT1

1 ヘパリンカルシウム皮下注 5千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」について

ヘパリンカルシウム皮下注 5千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」とは

ヘパリンカルシウムという多糖体物質を製剤化したもので、簡便にかつ安全に注射できるようあらかじめ注射器に薬液が充填されたお薬です。
ヘパリンカルシウムには、血液が固まるのを防ぐ作用（血液凝固阻害作用）があり、血管内で血液が固まって生じる疾患（血栓塞栓症）の治療及び予防に広く使用されています。

販 売 名	ヘパリンカルシウム皮下注５千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」
有効成分	ヘパリンカルシウム
添 加 物	グルコン酸カルシウム水和物、トロメタモール、塩酸、水酸化ナトリウム

注 次の方は原則としてヘパリンカルシウム皮下注５千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」を使うことができません。

1. 出血している方*1
2. 出血する可能性のある方*2
3. 肝臓に重篤な障害のある方
4. 腎臓に重篤な障害のある方
5. 中枢神経系の手術又は外傷後日の浅い方
6. 過去に本剤に含まれる成分で過敏な反応を経験したことがある方
7. 過去にヘパリン起因性血小板減少症（HIT）を経験したことがある方

*1：血小板減少性紫斑病、血管障害による出血傾向、血友病その他の血液凝固障害、月経期間中、手術時、消化管潰瘍、尿路出血、喀血、頭蓋内出血の疑いのある方　など
なお、切迫流産で出血した際は、担当医に連絡してください。担当医の判断で継続するか中止するかを決めます。
*2：内臓腫瘍、消化管の憩室炎、大腸炎、亜急性細菌性心内膜炎、重症高血圧症、重症糖尿病の方　など

副 作 用

このお薬には、下記のような副作用が知られています。使い始める前に予想される副作用について担当医からよく説明を受けてください。
このお薬を使い始めてこれらの症状や体調の変化に気がついた場合は、担当医に連絡し、指示を受けてください。

このお薬を皮下注射した場合によくみられる副作用と対処法

副 作 用	対 処 法
注射部位の反応 （赤くなる、はれ、しこり、かゆみ など）	●前回注射した場所を避けて注射してください。 ●正しく注射できているかどうか、このマニュアルを確認したり、担当医に確認してください。
注射部位の出血	●皮下に見える血管を避けて注射してください。 ●注射したあとで注射した場所を揉まないようにしてください。
肝機能検査値異常 （AST(GOT)上昇、ALT(GPT)上昇）	●担当医と相談してください。

重大な副作用とそれぞれの主な自覚症状

このような症状が現れた時は、ただちに医療機関を受診してください。

重大な副作用	主な自覚症状
ショック	冷や汗、めまい、意識がうすれる、考えがまとまらない、血の気が引く、判断力の低下、息切れ
アナフィラキシー様症状	からだがだるい、ふらつき、意識の低下、考えがまとまらない、ほてり、眼と口唇のまわりのはれ、しゃがれ声、息苦しい、息切れ、動悸、じんましん、判断力の低下
出血 （脳出血、消化管出血、肺出血、硬膜外血腫など）	意識障害、頭痛、しゃべりにくい、吐き気、嘔吐（おうと）、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、半身不随、血を吐く、腹痛、血が混ざった便、黒色便、血の混じった痰、血圧低下、手術部位からの出血、注射部位からの出血
血小板減少	鼻血、歯ぐきの出血、あおあざができる、皮下出血、出血が止まりにくい
HIT 等に伴う血小板減少・血栓症 （脳梗塞、肺塞栓症、深部静脈血栓症 など）	呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひ、手足のまひ、しびれ、四肢のはれ・疼痛・皮膚の色調の変化、注射部位が赤くなってきた、押すと痛いしこりができてきた

その他の主な自覚症状

関 係 部 位	症　　状
皮膚	かゆみ、じんましん、毛が抜ける、白い斑点ができる、出血を伴う皮膚の痛み・熱感　など
呼吸器	鼻づまり、鼻水、くしゃみ、息をするとヒューヒュー音がする、発作的な息切れ　など
注射部位	赤くなる、はれ、しこり、かゆみ、痛みを伴う皮下出血　など
その他	さむけ、発熱、涙が止まりにくい　など
〔長期投与による〕 骨粗鬆症 低アルドステロン症	骨折しやすくなる、腰・背中の痛み、手足の痛み　など からだがだるい、意識がうすれる、考えがまとまらない、判断力の低下、のどが渇く、深く大きい呼吸、手指のふるえ、尿量が減る、ふらつき、立ちくらみ、めまい、力が入らない、頭が重い、頭痛　など

2 自己注射を始める前に

このお薬の自己注射を始めるにあたっては、必ず担当医、看護師または助産師からお薬について十分な説明と指導を受けて、注射の方法と手順をしっかりと身につけてください。自信を持って自己注射が行えるようになるまでは、必ず医療機関で注射してもらうようにしてください。

注 自己注射を実施するにあたっての留意事項

在宅自己注射を始める前には、入院又は週2回以上の外来、往診若しくは訪問診療により、担当医などから教育を受ける期間を十分に取り、納得のいく指導を受けてから開始してください。ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）を予防するため、投与開始2週間以内は複数回、2週間以降は1～2ヵ月毎に検査を受けてください。

自己注射日誌について

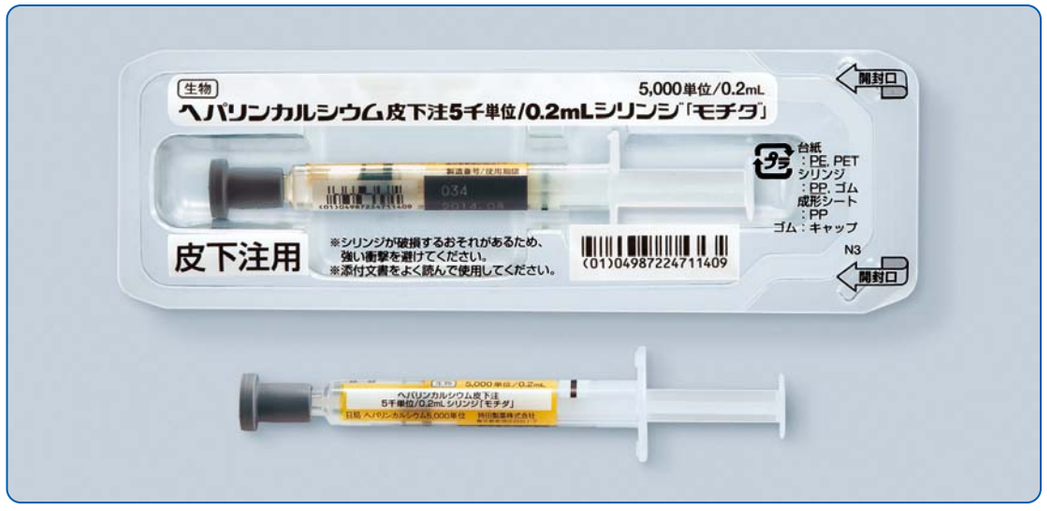
毎回の注射について、注射の実施の有無、副作用およびその他気付いたことなどを自己注射日誌に記入し、次の受診日に担当医にご提示ください。

自己注射に必要な資材

1 回の投与に必要な資材を用意します。
清潔な場所に器具をあらかじめ並べて置きます。

■ ヘパリンカルシウム皮下注5千単位 /0.2mL シリンジ「モチダ」

包装が破損したり、薬液が漏れているものは使用しないでください。



■ 注射針

針の種類（針の長さや太さ）は患者さんの体格や注射する部位によって異なりますので、担当医の指示に従ってください。
使用直前まで包装を開封しないでください。

注 注射針は注射器には含まれておりませんので、別に処方してもらう必要があります。

■ 消毒用アルコール綿

■ 廃棄用容器

廃棄用専用容器がない場合はビンや缶などの固い容器(例えばインスタントコーヒーのガラス瓶)などでも代用できます。

■ 自己注射日誌

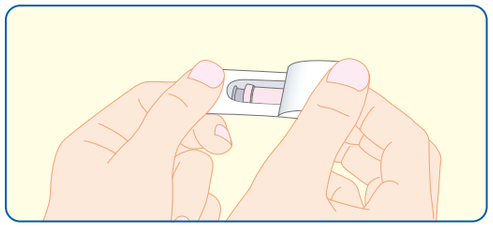
3 注射の準備

1 両手を石鹸で洗います

注射に必要なものを準備したら、両手を石鹸でよく洗います。
指と指の間、指先と爪の間もよく洗ってください。

2 注射針の包装を開封します

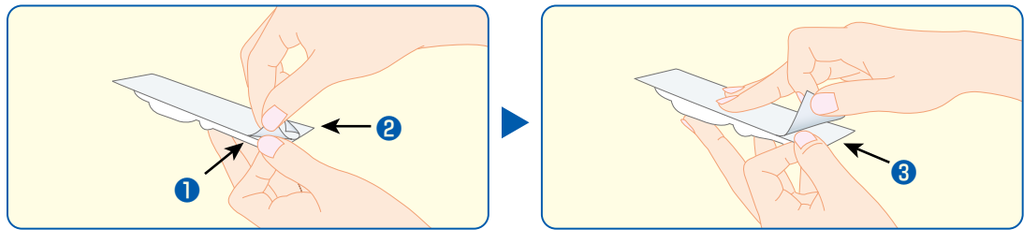
包装のシールを剥がしたのち、注射針を取り出さずにそのまま置いておきます。



3 注射器の包装を開封します

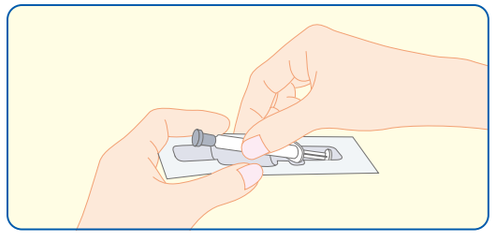
2つの“開封口”（下図❶、❷）から側面全体（下図❸）を開封し、シールをゆっくり全部剥がします。

注 包装は使用直前に開封してください。
注射器や注射針はいったん包装を開封したら、速やかに使用してください。



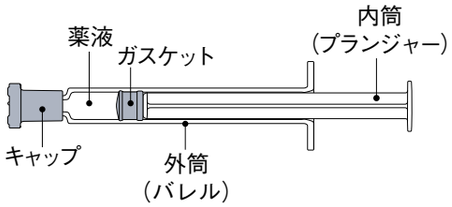
4 注射器を取り出します

注射器を取り出し、使用期限と薬液を確認してください。



注 内筒を持って無理に引き出さないでください。
（ガスケットが変形して薬液が漏出するおそれがあります。）

正常な薬液は無色～淡黄色澄明です。
注射器内の薬液に異物が混入していないか、変色やにごりがないか確認してください。

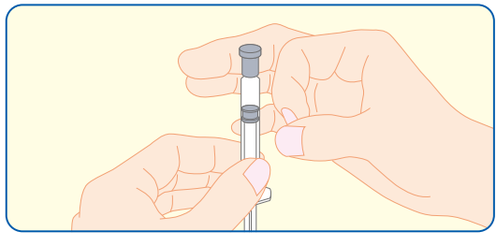


注 注射器に破損等の異常が認められる場合は、使用しないでください。

使用期限を過ぎたものは使用しないでください。
使用期限は注射器に年月で記載されています。
記載された月の末日が使用期限です。

5 気泡を上部に集めます

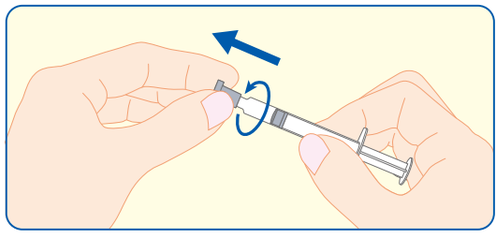
キャップ部を上にし、注射器本体を指ではじくなどの操作により、気泡を上部に集めます。
（キャップを外したときの薬液の多量の漏出を防ぎます。）



6 ゴムキャップを外します

注射器先端のゴムキャップをゆっくり回転させながら外します。

注 キャップを外した後、注射器の先端に触れないでください。



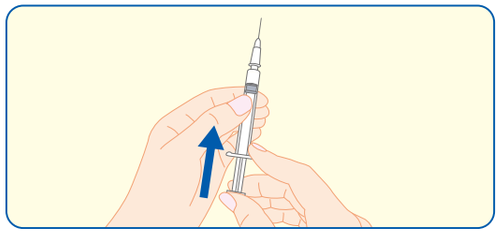
7 注射器に注射針を接続します

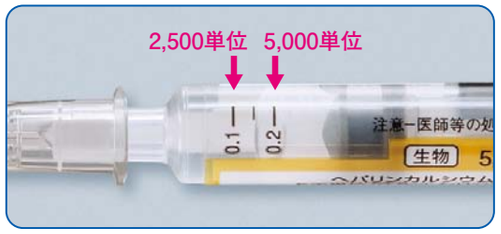
注射器に注射針をしっかり接続した後、注射針のキャップを外します。

注 注射針の接続にあたり、誤刺に注意し、しっかりと固定してください。
注射針はキャップを外した後に手や他の物に触れないようにしてください。

注射器内の空気を除去後、目盛りを担当医から指示された用量に合わせて使用します。

注 注射器内の空気を除去する際は、針を上にして外筒をしっかり持ち、内筒をゆっくりと空気が押し出されるまで押してください。これらの操作では、外筒を持ち、内筒は回さないでください。（内筒が抜けるおそれがあります。）また、もとのガスケットの位置より内筒を引かないでください。
0.1の目盛りは 2,500 単位、0.2 の目盛りは 5,000 単位となります。

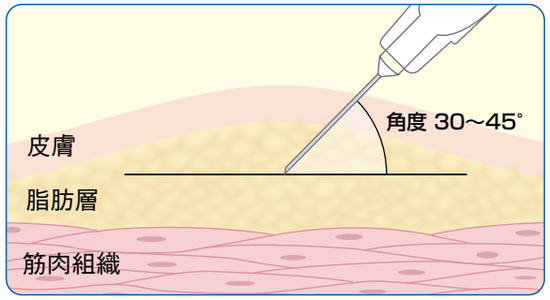




4 注射の手順

皮下注射とは

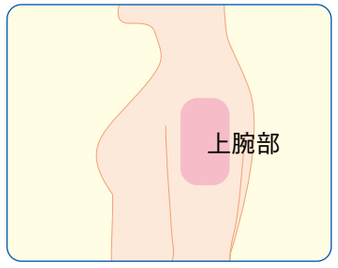
皮下注射とは、皮膚と筋肉組織の間にある脂肪層に行う注射のことをいいます。

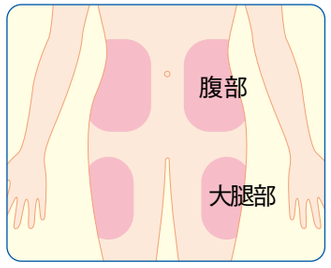


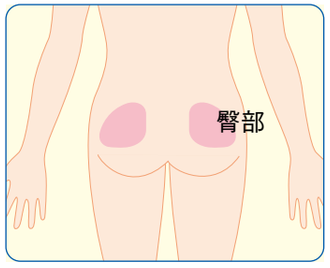
注射部位

皮下注射に適している部位は、大腿部（太もも）、腹部などです。ご家族の方に注射してもらう場合には大腿部、腹部の他、上腕部、臀部などにも注射できます。
いつも同じ部位に注射せず、担当医の指示にしたがってその都度注射部位を変えてください。

注 患者様またはご家族の方ともに、注射をする前には十分な教育を医療機関から受けてください。
詳しい注射部位は、担当医の指示にしたがってください。



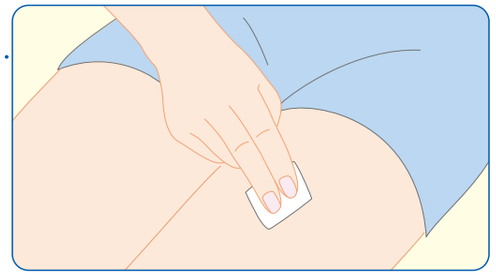




注射の方法

1 注射部位をアルコール消毒する

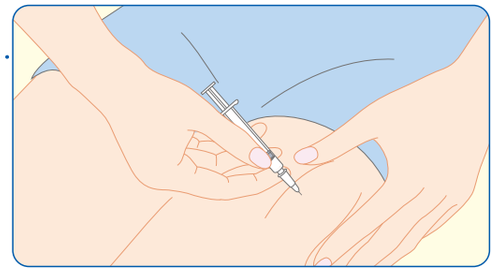
注射部位をアルコール消毒し、消毒した注射部位を十分に乾燥させます。



2 針を刺す

準備した注射器を片手で持ち、もう片方の手で注射部位を軽くつまみ、つまみあげた皮膚の真ん中に少し斜めに針を刺してください。

注 見えている血管は避けて注射してください。
へそ、ウエストライン及び太ももの内側への注射は避けてください。

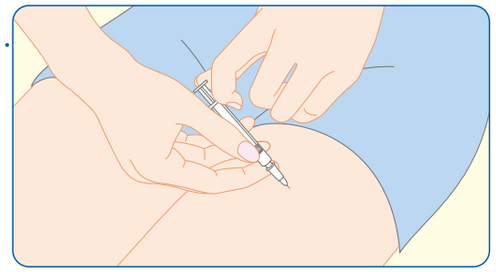


注射針を刺した時に激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。

3 注射液を注入する

注射器の内筒を静かに押して、薬液を注入し、数秒程度待ちます。

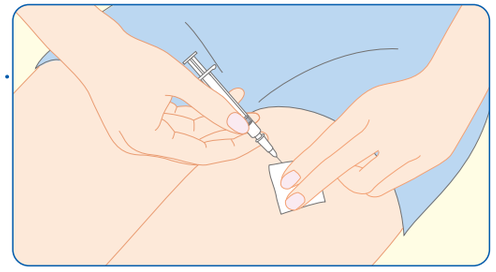
注 陰圧をかけて（内筒をわずかに引いて）、血液の逆流が見られないことを確認してから薬液を注入してください。
注射している時に、激痛を感じたり、血液が逆流した場合、すぐに針を抜き、部位を変えて注射してください。



4 針を抜いて、注射部位を消毒する

注入し終えたら、注射針を引き抜きます。
注射した場所を新しい消毒用アルコール綿で軽く押さえます。

注 注射部位が後から痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合は、担当医に連絡してください。
いつも同じところに注射せずに、担当医の指示通り、その都度注射部位を変えてください。



注射した後で、注射した場所を揉まないようにしてください。

5 注射器および注射針の廃棄

使い終わった注射器と注射針は、医療機関の指示にしたがって、廃棄用容器等に廃棄してください。
全て終了したら、もう一度両手をよく洗います。

注 一度使った注射器と注射針は、絶対に再使用しないでください。

6 自己注射日誌の記載

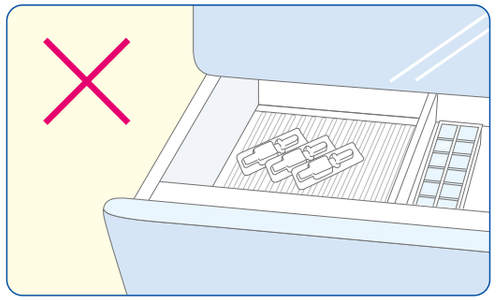
自己注射を行ったら、自己注射日誌に記載しましょう。

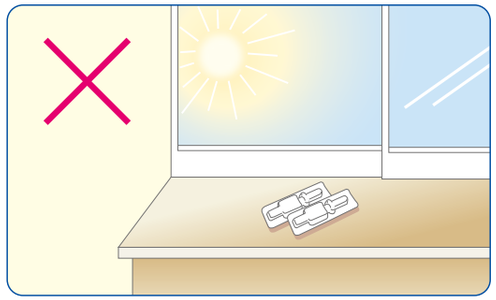
5 保管方法と廃棄について

このお薬の保管方法

■ このお薬は未開封のまま、光と湿気を避けて室温（1～30℃）で保管してください。
冷凍庫（フリーザー）などに入れて、凍結させないでください。
高温にさらしたり、温めたりしてはいけません。

■ このお薬と注射針はお子様の手の届かないところに保管してください。





注射器および注射針の廃棄

■ 使い終わった注射器および注射針の医療廃棄物は、廃棄用専用容器（ない場合はビンや缶などの固い容器）に入れて、医療機関の指示にしたがって廃棄してください。
（医療機関や自治体により廃棄方法が異なる場合があります。）

■ 廃棄用容器は常にお子様の手の届かないところに保管してください。

6 Q & A

注射部位から出血した場合はどうすればよいでしょうか？

止血するまで2～3分間押さえて圧迫してください。
ただし、出血が続いたり、痛みが続くような場合には担当医にご相談ください。

注射後すぐに入浴してもよいですか？

注射部位の感染予防のために、注射直後の入浴は勧められません。
就寝前に注射する場合は入浴後しばらくしてから注射します。

注射したあとが痛くなったり、赤くなったり、硬くなったりした場合には、どうすればよいでしょうか？

これらの症状が出現した場合には、担当医に相談してください。塗り薬などで治療する場合もあります。原因としては、同じ部位への注射の繰り返し、冷たい薬液の使用、注射の際に手が震えている、誤った注射の方法などが挙げられます。
正しい注射の方法により症状を予防できる場合がありますので、注射の方法を再度確認しましょう。

毎日同じ時間に注射しなければなりませんか？

注射する時間が多少変わっても問題はありません。ただし、安定した効果が得られるように、また注射を習慣づけるという意味でも、同じ時間帯での注射をお勧めします。

自己注射をやめたいのですが？

希望すればいつでも通院治療に切り替えることができます。
担当医にご相談ください。

風邪をひいているときに注射をしてもよいのでしょうか？

風邪をひいた場合は、担当医に連絡して指示を受けてください。

ヘパリン起因性血小板減少症（HIT）の主な症状は？

主なものは、呼吸困難、意識障害、けいれん、片側のまひなどです。このような症状が現れた時は、ただちに医療機関を受診してください。

注射を忘れたときは？

決して2回分を一度に使用しないでください。
注射を忘れた場合は、担当医に連絡して指示を受けてください。

注射針が外れてしまうのですが？

注射針が注射の操作時に外れてしまうことのないように、注射器にしっかり接続してください。
なお、外れた注射針は、針先に注意して廃棄用専用容器（ない場合はビンや缶などの固い容器）に捨ててください。